

# 週 報

1989年5月21日 聖霊降臨節第2主日

巻 10 8号

1989年度教会主題

「神の言葉に従う」

聖句 時に主はアブラムに言われた、「あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。」……アブラムは主が言われたようにいで立った。

創世記12章1節、4節a

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
  2. 新会堂の建築計画を完成する。

日本キリスト教団 **横浜港南台教会**

会堂 〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323

振替 横浜 9-13394

牧師宅 〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目-6-3-304

電話 045-833-6616

牧師 秋 吉 隆 雄

## 一牧師室から一

24年前、沖縄の近海で航空母艦から水爆を積んだ戦闘機が海中に落ちたという事故が、アメリカの公開条約法によって明らかにされた。5000メートルの海底に沈んだ水爆は、広島型原爆の70倍の威力があると言う。その後、水圧によって核物質が海中に流れ出たが、沈殿していると報道された。その真偽は素人には分からない。もし海洋汚染が黒潮に乗って広がったら太平洋の海産物は食べられない。こんな恐ろしい、理不尽なことはない。大国の横暴こそ非難されて当然である。日本は核の傘で守られていると言うが、その前の核汚染の方が心配になる。

リクルート疑獄から発した自民党の政治的混乱は、極みに達している。しかし、人間の営みだから回復は可能である。水爆汚染が起こっていたら取り返しがつかない自然破壊だから、問題は深刻である。沖縄県だけでなく、日本中で監視しなければならない。

事故を起こした空母は、その後直接横須賀に入港したと言う。日本は広島、長崎の被爆経験から非核三原則を国是としてきた。この空母は海中に落した水爆一個だけしか積んでいなかったとは考えられない。核兵器が横須賀に持ち込まれたと誰もが思う。ところが政府は核の持ち込みがある場合は日米安保条約で事前協議があることになっており、それが無いから核の持ち込みはないと強弁している。なぜ、事実関係を正さないのか。日本は主権のない、アメリカの一州なのかと問いたい。アメリカの軍人や外交官は、早くから核持込みの事実を国民に公表すべきであると語っている。私は国家主義に反対だが、政府の対応は独立国とは思えない。

横・横道路で横須賀から新潟の原発基で使う核燃料が運ばれていると報道されている。教会の真上を通っていることになる。科学的に処理できない兵器、物質は後の世代のために使ってはならない。